

# 第三者意見

## 「関西電力グループレポート 2015」のCSRに関するページを読んで

関西大学 社会安全学部・  
大学院社会安全研究科  
副学部長・教授、博士(法学)  
日本経営倫理学会 理事  
日本経営倫理士協会 理事  
経営倫理実践研究センター 上席研究員  
高野 一彦 氏



### 関西電力グループのCSR活動の特徴

「関西電力グループレポート 2015」では、冒頭の「ごあいさつ」で森会長・八木社長が、「CSRを経営の基軸」に据えて経営を行う旨の決意が述べられており、公益事業会社として従業員一人ひとりが「使命感」を持って行動することで「お客さまや社会に認められ、お役にたつ」企業グループを志す旨が示されている。本レポートにおいて、従業員も含めた多くのステークホルダーに対し、経営者がどのような理念を持って経営を行うのか、その姿勢を示すことは非常に大事なことだと思う。

本編では、「GRIガイドライン第4版」を意識して、本年度版から「関西電力グループのサプライチェーンと取組みの方向性」、「ステークホルダーとの関わり」が追加された。また「特集」では、原子力発電所の安全性向上のための対策について網羅的かつ詳細な情報提供を行っており、同社の「原子力発電の安全性向上への決意」をもとに、新規制基準への対応を真摯に行っている旨が読み取れる。さらに「関西電力グループCSR行動憲章」に規定された6つの行動原則について、それぞれのマネジメント手法と進捗をまとめ、最後に各責任者が「今後の方針」をコミットしている点は、本レポートの特筆すべき特長である。

本年度版レポートは、従前に増して網羅的かつ丁寧な情報開示を行っている点に敬意を表したい。本レポート中に「使命」という言葉が頻繁に登場するが、公益事業会社としての価値観を「使命」という言葉をとおして、経営者と従業員が共有しているのだろうと思う。全体をとおして大変好感が持てる内容になっている。

### 今後のCSR経営への期待

わが国では、2014年2月「日本版スチュワードシップ・コード」の公表、2015年5月の改正会社法の施行、そして同年6月「コーポレートガバナンス・コード」の施行と、企業にコーポレートガバナンスと企業グループ管理の強化を求める諸制度の運用が開始された。

電力業界においては「電力システム改革」が進展しており、2016年4月には小売への参入が全面自由化され、2020年4月には送配電部門の法的分離が行われる予定である。これからの数年間、電力業界はまさに「パラダイムシフト」と言っても過言ではない状況に置かれることとなる。

変化はピンチとチャンス両側面がある。同社グループは「総合エネルギーを中核とした競争力ある企業グループ」への変革を目指して、積極的に経営システムの見直しを行っている。今後、経営環境が変化する中でも高品質で安定的な電力供給を行うことができ、南海トラフ巨大地震のような大規模災害にも強く、さらに新規事業にも迅速に踏み出すことができる、高度な「経営システム」をさらに探求されることを期待したい。

一方、「日本版スチュワードシップ・コード」の影響により、わが国の上場企業はROE（自己資本利益率）重視の経営にシフトしつつあるように思う。ROEの偏重は経営者に近視眼的な経営を求める結果をもたらすおそれがある。しかし、同社グループは経営の効率を追求しつつも、公益事業会社として長期的な視座に立った経営方針が示されていると思われる。今後も収益性と持続可能性のバランスをとって、将来にわたって関西地域、そしてわが国の成長の礎としてあり続けて欲しいと願っている。

### ご意見に対して

関西電力グループレポート2015の発行にあたり、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

今回、高野先生から「会社としての価値観を『使命』という言葉をとおして、経営者と従業員が共有している」との評価をいただきました。今後もさまざまな機会を通じて、「お客さまと社会のお役に立つ」という使命をグループ全体で共有し、CSRへの理解浸透に努めてまいります。

また、「網羅的かつ丁寧な情報開示」との評価もいただき、大変ありがたく存じます。GRIガイドラインへの対応については、マテリアリティの特定など、ステーク

ホルダーのみなさまへの適切な情報開示のために、一層の検討を重ねてまいります。

高野先生のご指摘のとおり、電力業界は大きなパラダイムシフトを迎えています。当社グループは、経営環境が大きく変化するなか、ゆるぎない安全文化の構築や電力需給の安定といったベースアクションと、競争力ある企業グループへの変革に向けた戦略の確立などの変革アクションに、グループ一体となって取り組んでまいります。今後とも、収益性と持続可能性のバランスを十分考慮しながら、経営システム全般のさらなる高度化を図りつつ、ステークホルダーのみなさまからのご期待に応え、社会の持続的発展に貢献してまいりたいと考えております。



関西電力株式会社  
総合企画本部 副本部長  
CSR・経営管理部門統括  
稲田 浩二

私たち関西電力グループは、  
CSRを全うするため、「安全」を最優先として、  
より高いレベルのゆるぎない安全文化の構築に努めています。

## ——— 関西電力グループ安全行動憲章 ———

### 一人ひとりのコミットメント(目標)

私たちは、安全最優先を実践することにより、関わるすべての人の安全を守る。  
(社会の安全、職場の安全)

### 安全意識の約束

私たちは、一人ひとりが「共に働く仲間とその家族を不幸にしない」という強い思いのもと、思いやりに根ざした日常的なコミュニケーションを実践することにより、何でも話し合える風通しの良い風土を醸成し、継続的な改善を実践することにより、安全確保を優先する風土を醸成していく。

### 安全行動の約束

そして私たちは、自分自身だけでなく仲間の安全を守るため、危険を察知したらすぐ行動に移すといった自律的な安全行動を実践することにより、災害の根絶を目指していく。

## ——— 安全行動の誓い ———

私は、自分の安全は自分で守るとともに、  
仲間と家族の幸せを守るため、次のことを誓います。

### 安全のためにできることを常に考えます

自らの技術力や危険感受性を磨くことにより、安全のために自らができる領域を広げるとともに、常に自分に何ができるかを考え、積極的に提案する。

### ルールや手順を守ります

過去の教訓をもとに定められている安全に関するルールや、計画段階から順次予測した危険に対して決めた準備や手順をよく確認し、勝手に変更せず、確実に守る。

### 仲間の危険を避けるよう、ためらわず行動します

仲間が危険な状態に陥りそうな状況に気付いた際にはそれを放置せず、注意するなど、危険を回避するために、ためらわずに行動する。

### 予定と違う状況には、まず止まり相談します

事前に決めた計画や予定と違った状況に直面した時には、ためらわずにまず止まり、自分の勝手な判断で安全を確認することなくそのまま強行したり、変更したりせずに相談する。

### コミュニケーションを活発にします

共に働く仲間と家族を不幸にしないという深い思いやりに根ざし、形にとらわれず、自ら積極的にコミュニケーションを行う。